

種なしぶどう房きり講習会資料（2019）

J A中野市営農センター

1. 生育状況・情報提供

- ・巨峰開花 6/8 満開 6/11、シャイン開花 6/13 満開 6/16。平年並み～やや遅れ傾向。
- ・開花異常（未開花症状）について
展葉 6 枚頃から判別できるので、園地状況を確認し、不安があれば担当技術員まで
- ・シャインマスカット点検について
市場では品質（色あい・粒の大小・カスリなど）のバラツキが問題視されている。
今後は品質の高いブドウが選ばれるようになってくるとみられる。
本年度は着果量点検（7 月上～中旬）に加えて収穫前糖度調査（9 月頃）を実施する。
- ・接ぎ木について
長果 G11「クイーンズ」の増殖（接ぎ木・挿し木等）には申請書・報告書の提出が必要
緑枝接ぎ時期：5 月下旬～6 月末頃（以降だと枝が充実せず翌年枯死する恐れ）

2. 種なしぶどう房きり方法について

●品種別種なしぶどう房きり基準

品種	目標房重	開花前	満開時	段数×(粒)	目標粒数
巨峰	350g	2cm	2.5cm	13 段×③	30 粒
ピオーネ	500g	2cm	2.5cm	13 段×②	25 粒
パープル	400g	2.5cm	3.0cm	13 段×③	30 粒
シャイン	550g	3～4cm	4cm	14・15 段×③	35 粒

※県のシャインマスカット栽培マニュアルで果粒重 13～15g に変更になりました。

- ①基本的には主穂を利用する。
- ②主穂が使用できない場合は、第一支梗、ショルダーの順で利用する
- ③1 新梢 1 花穂房切り実施（1 つの花穂の房切りが完了したら他の花穂は切除）
- ④下向きの花穂・主軸の太いもの・正常な花穂を使用（作業のしやすいものを残す）
- ⑤種なしぶどうは房尻を摘まない（支梗が伸びて房型が悪くなる恐れ）
- ⑥ジベ処理マークを残す場合は房中間部で作成する。
- ⑦弱い新梢には房をつけず空枝とする（本年度の葉枚数確保、次年度の結果母枝充実）
- ⑧花に異常を感じた場合はなるべく多く房きりを実施する（花穂 2 つ・ショルダー等）

●房きり時期の新梢管理について

誘引：房きり作業実施前に誘引を実施しておくとも房きり作業がスムーズになる。

捻枝：立ち枝や生育の早い太い枝は誘引時に折れる心配があるため捻枝する。

摘心：・誘引や房きり実施後、生育が早い枝（強い枝）は摘心して枝伸長を止める
（花ふるい防止・果粒肥大促進）

- ・通常、房先 7～8 枚の未展葉部分の切除（巨峰・ピオーネ・ガッパ・パープルなど）

3. 房切り質問集・事例集

Q1) 1つの新梢に花穂が2～3つある場合どれを利用すればよいのか？

以下の2点を加味して例年の状況を振り返って適した花穂を利用しましょう。

- ・基部に近い花穂は粒肥大しやすいが、その分成熟が遅れる傾向。
- ・新梢先端に近い花穂は成熟が早くて色も付き易いが、粒肥大しづらい傾向。

Q2) 主穂の先端が2～3股に分かれて扁平な形をしている場合

- ・先端の分かれ目がはっきりしているものはまっすぐな形になるように整形する。
- ・先端の分かれ目が曖昧なものは実施せず、摘粒時期にまっすぐな形に整形する。
- ・第一支梗かショルダーを利用する（主穂の花量が多く摘粒に時間がかかるため）

Q3) 主穂の先端が極端に曲がっている・軸が扁平な形をしている場合

- ・第一支梗かショルダーを利用する（主穂の花量が多く摘粒に時間がかかるため）
- ・扁平な形の先端を切除し（尻切り）素直な形の部分を利用する。
- ・房切りの長さをやや長めにとり、摘粒時期に切り上げ・肩落としをして整形。

Q4) 昨年、未開花症状(開花異常)や奇形果が多く発生し、本年も心配な場合

- ・長めに房切りして先端まで開花したのを確認して、段調整を行う（満開頃）
- ・第一支梗かショルダーを利用する
- ・主穂とショルダーを房切りして予備を置く
- ・長めに房切りをして心配がなくなった後、切り上げ・肩落としをして整形。

Q5) 第一花穂と第二花穂、両方とも奇形（扁平・曲がり・2股など）な場合

- ・後の作業を含めてやりやすいものを房切りし、もう片方は切除する。
- ・ショルダーを利用する（比較的素直な花穂になるため）

《写真：H29 発生 シャインマスカット未開花現象の様子》



【特徴】

- ・主穂先端の蕾が上の支梗の蕾に比べ、明らかに小さい
- ・主穂先端の蕾が深緑色になる（黒ずんでいく）

【対策】※危険回避

- ・長めに房きりを実施し主穂上部を使用できるようにしておく
- ・ショルダーや第一支梗を利用する

現在、試験場や普及センターと協力して発生要因を調査中

4. 房切り時の様子（写真付き）

《写真①：房きり方法例（種なしぶどうの場合）》



花穂全体の様子



主穂利用

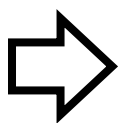


ショルダー利用

《写真②：房切り・摘心・新梢管理などの様子》



カネハール展葉 8~9 枚頃



花穂・副梢・巻きひげ切除／房切り後、新梢先端を摘心



《写真③：誘引の様子》



主枝棚下・短梢カネハール展葉 8~9 枚頃／捻枝・誘引・房きり・巻きひげ切除・副梢かき

5. 種なしぶどうの今後の管理について

① ストマイ液剤 20

散布時期 満開 14 日前～満開始期（5 月下旬）
散布濃度 1,000 倍
注意事項 有核栽培の園地がある場合はドリフトしないように十分注意する。
散布時期の遅れに注意し、果房に十分かかるように散布する。

◎種なしぶどうについては必ずストマイ液剤を散布する

② フラスター液剤

散布時期 展葉 9～11 枚（6 月上旬頃）
散布濃度 フラスター 3 本／10a あたり（使用量の目安）
SS 散布 1,000 倍 300 ㍺/手散布 500 倍 150 ㍺
※散布例 種なし巨峰：SS で散布の場合 1,000 倍/300 ㍺（10a）
手散布の場合 500～800 倍/150 ㍺（10a）
シャインマスカット：1,000 倍～2,000 倍

◎品種により、フラスターの散布倍率が違うので注意する

③ ジベレリン処理（種なしぶどう必須管理） ※後日、講習会実施（6 月上旬予定）

第 1 回目 ジベレリン処理前に必ずストマイ液剤を散布する

処理時期 満開から満開 3 日頃（果粒がマッチ棒）
処理濃度 ジベレリン 25ppm ＋ フルメット 5ppm（水 2ℓに 2 錠と 1 本）
注意事項

- ・パープルはフルメットを使用しない。肥大良好園はフルメットを 2.5ppm に調節
- ・早く処理しすぎない様に注意（軸が間延びしてしまう可能性あり）
- ・遅すぎるのも注意（十分な効果を得られない）

1 発処理について※着色しにくい品種（ピオーネ・赤系ぶどう）などにオススメ

処理時期 満開 3 日後から満開 5 日
処理濃度 ジベレリン 25ppm ＋ フルメット 10ppm（水 2ℓに 2 錠と 2 本）

例年着色不良の場合はジベ濃度・フルメット濃度の調節を検討

【注意！】シャインマスカットのジベレリン処理について

シャインマスカットは「果粒がマッチ棒」の大きさになるまで待ってしまうとジベレリンの十分な効果が得られない可能性がある。

シャインマスカットの第 1 回目のジベレリン処理は満開から満開 3 日後を厳守する。

④ 房長調整（段落とし）

房長調整についてはできるだけ早めに実施。

着粒過多は赤熟れ・品質低下（小玉・糖度不足）を助長する。

房長を調整してから摘粒開始する

房長調整(目安)	1 回目ジベ処理時	2.5～3.0 cm位（指 2 本程度）
	ジベ 1 週間後	5.0～6.0cm 位(指 3 本程度)
	2 回目ジベ処理時	7.0～8.0 cm位（指 4 本程度）